2020年 春発行
第19号

日本赤十字社茨城県支部

赤十字ボランティア通信

柔道整復師会奉仕団が結成され10年目を迎えました

坂本道彦委員長

柔道整復師会奉仕団は、平成22年11月に現在の公益社団法人茨城県柔道整復師会に加入する会員が、柔道整復師の技術を生かし、赤十字の理念と使命に基づき、明るく住みよい社会を築きあげていくための奉仕活動等に協力することを目的に、約280名が参加し特殊奉仕団として結成されました。

これまで、日本赤十字社茨城県支部が開催する各種救護訓練などに積極的に参加する一方、東日本大震災時の大洗町（約50名）や常総市豪雨災害（約70名）の救援活動にも参加をしております。

これからも、団員一同さらなる防災力向上のため、災害に備えた様々な取り組みを実践、継続してまいります。

常備救護訓練に参加した時の様子

大子町ボランティアで休憩中の団員

赤十字奉仕団中級研修会を開催しました

11月8日、当支部において中級研修会を開催しました。各地で台風被害があり、参加者は予定より減ってしまいましたが、水戸赤十字病院看護師長による災害救護活動の講話、笠間市赤十字奉仕団による災害時活動の事例発表、災害時高齢者支援講習など、災害時のボランティア活動に活かせる内容で参加者から好評でした。

事例発表する松居さん（笠間市赤十字奉仕団）

毛布を使ったガウンを着た有田委員長（常総市赤十字奉仕団）

事例発表する磯部さん（笠間市赤十字奉仕団）

ミャンマー赤十字社訪問報告

日本赤十字社がミャンマーの救急法普及事業を支援していることから、12月3日から7日にかけて、北関東四県支部の赤十字ボランティアが、支援の実績を視察してきました。

矢口　輝行さん

石岡市赤十字奉仕団委員長
赤十字奉仕団茨城県支部委員会
副委員長

ミャンマー赤十字社ヤンゴン支部を表敬訪問し、歓迎のあいさつの中で、今後もミャンマーの救急法事業を推進するために、資金の援助、指導員の派遣などの要望があった。

その後、ヤンゴン市内の中学校を訪問し、生徒による見事な三角巾での手当方法や、人形を使っての心肺蘇生法など、救急法の講習を視察した。

なお、ミャンマーの救急車は、各病院が所管しており、現場到着まで通報から２時間ほどかかり、有料とのこと。けがの応急処置として三角巾は欠かせないものであるとわかった。

また、ヤンゴン市内を移動中、家屋や交通状況など、日本との経済格差を目の当たりにして、支援の輪を広げるためには、日赤の果たす役割についての意識の啓発や、寄付を募る活動を積極的に取り組む必要があることについて、認識を新たにした。

生徒による心肺蘇生法

草野　修治さん

赤十字防災ボランティア
地区リーダー（常総市）

ミャンマー赤十字社表敬訪問では、事業（救急法、防災、災害救護、健康啓蒙等）を動画により紹介された。また、講師が生徒に三角巾包帯法を指導していた。訪問団員も、日赤で指導している包帯法を紹介し、ミャンマー赤十字社独自の目の包帯法を学ぶ等、交流を深めた。

別の日は中学校を訪問。生徒は日頃から救急法、公衆衛生、火災、水害、地震等について教育を受けている。地震発生時の避難訓練を見学し、訓練の成果が見られた。子供達は、少ない教材で一生懸命勉強しており、図書室にはボロボロの本が重ねてあった。学校の数もヤンゴン付近には２校しかないという事、全体的に貧富の差が大きく、一般市民の衣食住は厳しい状況である。

この様なことから、日本赤十字社による支援事業は継続されればいいなと感じた。

避難訓練、鞄を頭に乗せて守る

JRC・RCY交流会

12月1日、青年赤十字奉仕団（RCY）メンバーと青少年赤十字（JRC）高校生メンバーは交流会を実施しました。この日は『寄付の日』にちなんで、社会貢献に関する講義やグループワークを行ったところ、「寄付の大切さや可能性を学んだ」「ただ寄付を集めるだけでなく使途を理解して集めたい」などの感想が聞かれました。

活発に意見を出し合うメンバー

発行　日本赤十字社 Japanese Red Cross Society　茨城県支部
所在地：水戸市小吹町 2551 ／ 電話：029－241－4516
ホームページ：http://www.jrci.jp/

ボランティア活動紹介

台風第15号・第19号による災害時の活動

昨年９月に発生した台風第15号は、千葉県に上陸。潮来市などで停電や家屋の損壊が発生し、奉仕団員が協力してブルーシートの配布をしました。

また、10月に発生した台風第19号により、県内全域で河川の氾濫や堤防決壊などの浸水被害が相次ぎました。この災害で赤十字ボランティアは、被災地のニーズ調査や清掃、夕食時の汁物の炊き出しなどを行いました。

大子町の被災地の様子

大子町災害ボランティアセンター運営支援

防災ボランティアリーダー　須藤　久男さん

今まで温暖化による異常気象という言葉は聞いていたけれど、こんなに身近に迫っているとは思わなかった。雨が降れば局地的な大雨、台風にしてもとんでもない強風である。

大子町災害ボランティアセンター運営支援の依頼がきたときは、「山岳部なのに何で水害？」と思ったが、大子町に車で向かう途中に山から砂利が道路に流れ出ている所を見て、いかに雨が降ったかがわかった。

ボランティアセンターに着くと、社会福祉協議会により受入体制ができていた。私たちは資材班に入り、資材の貸出・回収・洗浄や、長靴消毒、手洗い・うがいの指導、駐車場誘導などを行った。

私は10月18日から12月22日までの間で延べ10日間活動したが、雨の日が多くスムーズにボランティア活動が出来ないこともあった。しかし、地区リーダーに活動依頼をした際は、皆気持ちよく引き受けてくれた。個人情報に配慮しつつ連絡体制を強化し、次の活動に活かしたい。

災害ボランティアセンターにて（中央が須藤さん）

常陸太田市避難所における炊き出し

常陸太田市から、「避難所の夕食時に温かい汁物の炊き出しを行って欲しい」との要請が当支部にあり、地区分区経由で依頼をしたところ、たくさんの団から「協力できるよ」とのありがたい声を頂きました。日程や地域性を考慮し、今回は掲載した団の皆さんに実施していただきました。

夕食支援のため遅い活動時間となりましたが、各団が栄養たっぷりの温かい味噌汁やけんちん汁などを提供し、被災者に大変喜ばれました。

ひたちなか市赤十字奉仕団

10月15日	那珂市赤十字奉仕団	10月23日	茨城町赤十字奉仕団
10月16日	ひたちなか市赤十字奉仕団	10月25日	小美玉市赤十字奉仕団
10月17日	笠間市赤十字奉仕団	10月27日	茨城町赤十字奉仕団
10月19日	鉾田市赤十字奉仕団		

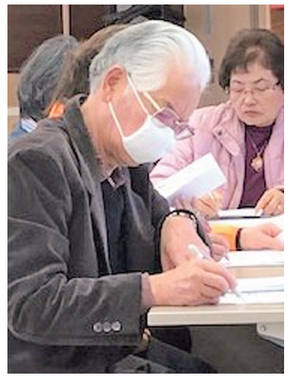
1月31日、支部において防災セミナーを開催しました

参加者の感想　五霞町赤十字奉仕団　猿橋　延保さん

今回のセミナーは、平成27年関東・東北豪雨災害の常総市の事例をもとにグループワークを行いました。特に発災直後や避難所生活で重要だと思った事は、次の点です。

①災害メールや自治体の放送、知人からの情報確認をすること
②避難する判断と避難する時、近所へ声掛けや電話連絡をすること
③地域や近所との日頃のつながりが大切であること
④地域リーダーが必要であること（面倒見が良く、調整上手な人）
⑤リーダーが中心となり地区内で災害対策本部を立ち上げ、物資やボランティアの要望などの取りまとめをするなど組織的な対応も必要であること

事例をもとに開催され、大変参考になりました。また、支部の活動内容もよくわかりました。私も団員として協力をしてまいりたいと思います。



グループワークをする猿橋さん

アマチュア無線奉仕団の紹介

前号で結成50周年の記事を掲載しました、アマチュア無線奉仕団の役員を紹介します。

藤岡委員長（右）と事務局の井上さん

委員長　藤岡　利夫さん

1. アマチュア無線、車
2. 麺類
3. 趣味で取得したアマチュア無線の資格でボランティア活動が出来ることを誇らしく思っています。50周年の歴史と諸先輩方の努力を受け継いで、私達も頑張ってきました。これから先は、後輩を育て100周年を目指して、繋げて行ってくれることを目標にしたいと思います。

副委員長　石黒　博さん

1. ドライブ旅行（荷物を持っての行動が嫌なので車移動。古き良き街並みを訪問。）、無線（「声なじみ」が増えるのが楽しみ。）
2. うなぎの蒲焼き。偏食のない人間に育ててくれた親に感謝。
3. 半世紀の歴史の礎を築いてくれた諸先輩に先ずは一礼。永続性のある奉仕団として団内の風通しを良くして、恒例の事業を始め全員参加が出来る活動にしていきたい。団員の地域活動を限定的なものとせず、奉仕団の活動として根付かせて行きたい。日赤の研修、訓練も大切にし、これから歴史として加えられる実績を作って行きたい。

副委員長　大橋　誠さん

1. アマチュア無線
2. 嫌いな物はありません。特に野菜の煮物が好き。
3. 私達アマチュア無線奉仕団は、昭和34年の創設以来50年に渡り活動を続け、日頃より日赤や県が開催する災害救護訓練において、他支部のアマチュア無線奉仕団との非常通信訓練に励み、全国のアマチュア無線愛好家との通信を、非常時には情報収集に役立てております。

尚、今後といたしましても、実際の災害現場等での無線通信の中継及び情報収集活動等にあたるなど、支部と連絡を密にし協力して活動をしていきたいと思っております。

1：趣味・特技　2：好きな食べ物　3：結成50周年を迎えての意気込みや今後の目標